

2017年1月16日

各 位

会社名 株式会社 ベイカレント・コンサルティング
代表者名 代表取締役社長 阿部 義之
(コード番号:6532 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部長 中村 公亮
(TEL 03 - 5501 - 0151)

2016年12月9日付公表の2017年2月期の通期業績予想の修正 及び代表取締役の異動の経緯並びに今後の事業推進方針について

当社は、2017年1月13日に当第3四半期の決算情報を開示致しました。本日は、2016年12月9日付で新代表取締役に就任致しました阿部 義之より、当社が同日付で公表した2017年2月期の通期業績予想の修正及び代表取締役の異動を含むこれまでの経緯について、並びに今後の事業推進方針について、株主をはじめとしたステークホルダーの皆様へのメッセージを下記の通りお知らせ致します。

記

ステークホルダーの皆様へ

2016年12月9日に代表取締役に就任致しました阿部 義之です。

この度、2016年9月2日の新規上場後、2016年12月9日付で通期予想の下方修正を実施したこと、及び同日付で前代表取締役の萩平 和巳氏(以下「萩平氏」)が辞任したこと等から、ステークホルダーの皆様にご心配、ご不安を与え、同日以降株価が大幅に下落しておりますことについて、お詫び申し上げますと共に、今後の事業推進方針について公表させて頂きたく存じます。

1. 通期業績予想の下方修正に至った経緯について

当社は、2016年9月に東証マザーズに新規上場し、日本発のグローバル総合コンサルティングファームとなることを目標に、サービスの高付加価値化による収益性の向上と事業拡大を目指しておりました。

2016年10月14日に開示した当第2四半期の決算においては、当初の業績予想(2016年9月2日公表)の想定に沿う実績で推移しており、下半期も堅調なスタートを切りました。しかしながら、2016年10月頃より、萩平氏が直接指揮を執り、これまで継続的取引により安定的収益を維持していた案件

について受注を制限し、受注価格を引き上げるなどして高単価化を強く推進しましたが、プロジェクトリリースで待機となるコンサルタント数に見合う案件数が確保できなかったことにより稼働率（注1）が悪化し、過去においては安定的に90%超の水準を維持していた稼働率が70%台の水準となりました。また、当社からの突然の申し入れにお客様も困惑し、社員からも施策に対して疑問の声が上がり始めました。

その結果、当第4四半期にかけて、さらなる稼働率の落ち込みは免れない事態となったため、2016年12月9日付にて通期業績予想の下方修正を行っております。

（注1）稼働率……全所属コンサルタントに対する、ある時点においてプロジェクトに参画しているコンサルタントの割合

2. 前代表取締役の辞任について

萩平氏は、上記施策の断行により経営が混乱して業績見通しの悪化が顕在化し、社員からの萩平氏に対する不信の声が高まったことから、突然辞任の意向を表明しました。一般的に考えて、上場から3ヵ月での代表取締役辞任は、ステークホルダーの皆様にも更なる不安や疑念を与えかねません。また、本来であれば萩平氏は、混乱を収束させ、業績を立て直す責任を負っております。しかし今回は、自らの力で立て直すことは困難であるという本人の意向もあり、人心の刷新、及びお客様の信頼を回復し、速やかに収益の安定化と着実な成長を実現するためには止むを得ないとの判断から、取締役会の全会一致で辞任を受理し、後任として私が選任されました。私としましては、このような状況の中、何としても収益を維持し、再び成長軌道に乗せることが最大の責務であると考え、引受ける事と致しました。

3. 今後の事業推進方針について

私が代表取締役に就任して以来、まずは収益の安定化と維持を優先し、既存のお客様を中心に新体制の説明に伺って関係を改善し、稼働率の回復を図っております。また、現場で活躍するコンサルタントを中心に、時間の許す限り社員とコミュニケーションを取るようしております。

就任して1ヵ月が経ち、社内の雰囲気も一新され、前向きな報告が多数聞こえてきますし、当社経営幹部や主力コンサルタントの結束はむしろ固くなっていると感じます。今期は残りわずかとなりましたが、業績の維持向上に向けて社員一丸となり、来期以降更なる成長を目指して行きたいと思っております。

今後の事業環境は、新規事業投資やIT投資に伴う堅調なコンサルティング市場、IT市場の需要に支えられることが見込まれております。具体的な成長計画はこれから策定することになりますが、私としては、急激でリスクのある成長計画ではなく、足下の収益維持を大切にしつつも、着実に成長することを念頭に、コーポレート・ガバナンスを強化して経営を安定化させ、株主の皆様にも安定的に還元していける体制を確立したいと考えております。

4. のれんの減損について

2016年12月9日に通期業績予想の下方修正を公表して以降、ステークホルダーの皆様より、当社が計上するのれんに、減損が生じているのではないかとのお問い合わせやご意見を頂いております。

当社では当第3四半期の決算開示にあたり、外部専門機関の支援の下、のれんの減損テストを実施し

ております。減損テストの実施においては上記の事業推進方針に従って、保守的に将来の業績予測を検討し、外部専門家によるさらに保守的な見解も踏まえ実施致しました。その結果、現時点で減損は発生していないという結論を得ています。

今後も、安定的かつ継続的な収益の維持拡大を実現し、皆様にご心配をおかけすることの無いように事業を推進して行きたいと考えております。

※のれんの減損テスト実施に関する詳細は別途公表し、ご説明させていただきます。

5. 最後に

2016年12月9日以降、ステークホルダーの皆様より多数の激励や厳しいご意見を頂いております。これまで新代表取締役としてメッセージを発信できていなかった点について、心よりお詫び申し上げます。当社としては、今後ともステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう更なる発展を目指し業績の向上に努めてまいります。

以上